

第39回日本毒性学会 研究発表のご案内

< 口演発表 >

一般口演 3 7月17日(火) 13:30 - 14:25 第5会場

演題番号: O-11

演題名: ポリアクリルアミドゲルディスク電気泳動法による
ウサギの血漿アルカリフォスファターゼ(ALP)アイソザイム分析

概要:

アルカリフォスファターゼ(ALP)は臓器障害時に血中へ逸脱し、血漿中の活性を上昇させることから、一般毒性試験で頻りに測定されております。アイソザイム分析は有効な手法ですが、実験動物では分析法が十分に確立されておりません。マウス、ラット及びイヌについては過去に検討しており、報告済みです。今回、ウサギの血漿 ALP アイソザイムについても同様に検討したので、報告いたします。

< ポスター発表 >

ポスター 7月17日(火) 16:30 - 17:30 ポスター会場1

演題番号: P-25

演題名: ビーグル犬における Sodium Iodate による網膜毒性の検出

概要:

比較眼科学会基礎部会が企画した ERG 共同研究において、ヨウ素酸ナトリウムによるビーグル犬網膜への影響を複数施設にて検出し、機器や施設による網膜毒性の発現差について検討したので、報告いたします。

演題番号: P-28

演題名: シルデナフィル投与によるマウス聴性脳幹反応(ABR)の変化

概要:

ABR は聴覚毒性の評価方法として注目されており、弊社では既にサル、イヌ及びラットで測定可能です。今回はマウスへの応用を検討し、シルデナフィルのマウス聴覚に対する影響を ABR で検出することができましたので報告いたします。

ポスター 7月17日(火) 16:30 - 17:30 ポスター会場2

演題番号: P-39

演題名: がん原性試験における CD-1 (ICR)マウスの自然発生腫瘍
- 特に早期発生腫瘍について -

概要:

がん原性試験の評価においては、使用する動物の自然発生性腫瘍を把握しておくことが重要です。当施設では B6C3F1 マウスががん原性試験に繁用されていますが、近年、CD-1 (ICR)マウスを使用する機会が増加しています。本報告では、CD-1 (ICR)マウスにおける腫瘍の発生時期を把握する目的で、当施設で最近時に行われたがん原性試験における対照群動物のデータを集計し、検討を行いましたので報告いたします。

ポスター 7月18日(水) 16:00 - 17:00 ポスター会場1

演題番号: P-128 (弊社研修生による 所属:東京農工大学)

演題名: 発がん標的性の異なる発がん物質のラット 28 日間反復投与時の
各標的臓器における肝発がん物質反応指標の発現変動

概要:

肝発がん物質の反復投与により、肝細胞に細胞周期異常を反映した巨大核が出現する場合があります。近年、巨大核出現のメカニズムに染色体の不安定性増加に引き続く発がんに至る過程の存在が推定されております。これまでに、肝発がん物質に反応する早期指標探索により、指標分子候補を見出しました。今回、これらを発がん指標候補とし、発がん標的性が異なる発がん物質の 28 日間反復投与時の反応性を検討したので報告いたします。



ボゾリサーチセンター